

三校合同課題研究発表会を行いました。

令和7年度の「探究科学科三校合同課題研究発表会」が、12月20日（土）、富山国際会議場で開催されました。富山高校・富山中部高校・高岡高校の探究科学科1・2年生、関係教職員、大学等の教育関係者に加え、高校生、中学生、保護者の方々の参観もあり、会場は非常に熱気に包まれていました。

開会式は生徒代表のあいさつの後、各校の代表班の発表が続きました。富山高校理数学科代表班「水柱が発生する方法と原因について」、高岡高校人文社会学科代表班「まず、翻訳とは…何か（エクスプロナトリー）」、富山中部高校理数学科代表班「竹刀で切断しない？～かっこいい切り方を目指して～」と、各班とも聴衆の興味を引きつけるものでした。それぞれ、具体的な実験動画や写真・図表を多く用い、できるだけわかりやすく伝える工夫が見られました。会場からは発表や研究に対する質問が多く飛び交い、参加生徒の意欲や知識欲が垣間見られる開会式・全体会となりました。

開会式後は、国際会議場の2階と3階に分かれ、各班がこれまでに取り組んできた課題研究に関するポスターセッションが行われました。どの班も、工夫を凝らしたポスターの前で、高校生や教員、一般の参観者と、これまでの研究に関して活発な意見交換を行っていました。

他校の探究科学科の生徒や一般の参観者から質問を受けることは、緊張感を伴うものですが、発表から学ぶことは多く、生徒たちは、大きな刺激を受けていました。「自分の視野を広げることができ、貴重な経験となった。」「去年、先輩たちの発表を見て、自分に出来るのか不安に思っていたが、何とか無事に終えることができた。」「聞き手に研究内容が伝わるよう、丁寧に発表できてよかったです。」「他校の生徒や保護者の方々の意見や指摘のおかげで、さらに研究を深める良い機会となった。」「普段関わることの少ない他校の人たちと意見交換ができる、すごく有意義な時間であった。」といった感想が多く聞かれた一方で、「考えを多くの人に伝えるのは難しかった」「考えていることが聞き手に伝わりにくかった」などの感想もありました。

閉会式の「三校の代表生徒による感想」では、本校2年生の代表生徒が課題研究に対する思いがこもった意見や感想を述べて、参加生徒や来場した方々の共感を呼んでいました。



